

昭和16年8月1日（金）

午前曇り、十時頃より晴れ。夏らしき天候を呈す。ハンカチを坊やの顔に掛け、朝九時五十分頃、共に坊を連れ行く。二回目は四辻にて、横田氏乳母に会ふ。連れ戻り、野口さんに菓子を買わせ土産に遣る。例の如し。其の他は夜まで余連れ行き、為に仕事の方、疎かになる。朝八時、柳浦局長臨局。乗りはぐれ一時間以上、局にて待ち合わすべく来たりし如し。朝飯半ばにして接伴す。報告物作成せしも、発送出来ざりし。

昭和16年8月2日（土）

晴れ。襦袢良く乾く。五時、重湯に牛乳を加え一合程与ふ。湯にて身体を拭き呉る。神様に行かず。昨夜ミワさん、独りで神詣でさる。隣組金物屋に集合、余不参。兵器献納賞品に付き協議。従来貯蓄の三円五拾銭出資に対し、此の組織に加入し居らざる余等四戸は、各自の意思に基づき出捐（しゅつえん）することとなり、今日上本氏来局に付き、ミワさんと謀り、二円出捐することとせり。外に常会費として五拾銭出金す。ミワさん昨夕、医師の診断云々申出づ。今日熱発36, 5、夕方より37, 1に昇るも、粥食せり。元気らしき如し。十時と二時と二回に、横田氏乳母来て下さる。十時には老母も来らる。其の都度、菓子やる。夕、六時は余連れ行く。湯を遣わし、又重湯を造る。切手代払込み、品物の受取、皆、余行く。十時過ぎ寢床。

昭和16年8月3日（日）

晴れ。朝、例に依り、湯に手拭いを浸し、坊やを拭って遣る。重湯を与ひ、便所させ、七時に十時に、二時及び

六時連れ行く。横田氏宅に八幡の縁者、昨夜より泊まり、野菜類買い漁りに、懸命の努力を重ねらる如し。坊や4疋（キログラム）200、一貫目を越ゆ。局の仕事せず、坊やを守る。ミワさんアスピリン石黒より求め、余、健胃固腸丸を（以前求めありし品）遣りたり。便所数回、嘔吐を催す気配変わらずと云ふ。重湯を食べ御附けを食ふ。常人と変わらず食欲あり。横田老母、妊娠なしと評す。九時四十分、坊やに牛乳を遣る。重湯を作る。

昭和16年8月4日（月）

此の日、十時半二時半の二回、政恵さん来て下さる。二回目は饅頭求め土産とす。概ね菓子を出す。朝と夕方は余、乳貰ひに行く。仕事大分進捗す。井上さん過払い事故、復た出来かし西吉富まで行かる。野口氏窓口担当。表街路の掃除、肉屋丸久氏六時、余の分まで綺麗に水を打ち下さる。

昭和16年8月5日（火）

晴れ。此朝ミワさん神様と乳貰ひとに行かる。十時と二時と二回、政恵さん単身来て下さる。茄子畑よりちぎり、数個持来さる。二時に来られた際は、饅頭四銭のを求め土産にせらる。夕方は余連れ行く。夕餉には着手し居られず。坊や発熱ありと計って見しも、36，8に過ぎず。汗かきにて眠るとき枕を濡らし、背中の部分も汗にまみる。税務署へ計算書発送。去る日曜日午前、鶴居局長臨局。耶馬溪倶楽部にて主査の会合なりと謂はる。豊後町長78の高齢にて退職、後任選定中とあり。平原氏適任なるが、資産なしと云ふ。大貞局長のことも、仕事には一向携わらずと云はる。

昭和16年8月6日（水）

朝の間、靄かかり曇天の如き現象なりしか、漸次晴れ渉る。暫く振りで坊や神様に行く。街路掃除せんとしたるも、既に水打ちあり。肉屋にて早起き、此の措置に出でしもの。乳貰ひに四回共、余行く。此日七夕祭り、竹一本25銭せりと云はる。横田氏宅にて求めらる。風かなり多く、横田氏宅は割合涼し。母堂等湯に行かれたるも、坊やは八時半より湯をつかってやる。重湯を作り九時半になる。

昭和16年8月7日（木）

曇り。台風九州南部に襲来の報あり。険悪の様相を呈し居れり。朝五時半までかかり、湯にて坊やの全身を拭ひ、乳を遣り、便所させ、次いでミワさんに手渡す。真裸で表に出すので、蚊に刺される恐れあり。自分は刺されつつ、坊やを吐息にて吹き廻す。必ず大便する故、十分間位、皇匆として家に入り、衣服を改め神様にお詣りさす。此の日は、四回共ミワさん行って呉る。茄子2、白瓜2、胡瓜1、横田氏持来らる。政恵さん九時、政恵氏弟の熊本講習所に行き居る者あり。十日ぐらい休暇を家に過ごし得るから、旅費送れと手紙ありしとて、書留にて発送の為、臨局。坊やを見舞われ、夕方行きし際、御祖父さま漁獵の大魚、野良猫に盗まれ祖母さまを打つ。猫の番が出来ぬかと叱る。政恵ちゃん坊やを抱き気を揉み、乳を遣る段でなさそう。坊や販り、猶飲み足りぬか、気六つけし。八時半湯をつかわし、次いで米を磨り坊やの食糧を調製す。此日、牛乳午後の配達なく、為念、牛乳配達係に頼み、発送取扱方依頼す。牛乳なくなり夜配達を欠くことありと云ふ。夕飯に天麩羅頂く。良く揚げ方不足の

感あり。

昭和16年8月8日（金）

晴れ曇り半ばす。朝五時半、神様に坊や連れ行かる。表街路掃く。肉屋も靴屋も戸閉まりあり。道子宛て手紙出す。坊やの行事を其の儘書く。此の日立秋。台風九州を避け心配なくなる。午後二時、政恵ちゃん八幡の娘を連れ、乳を与ひるべく立ち寄らる。饅頭を兩名にやる。井上さん拾円不足せしむ。

昭和16年8月9日（土）

晴れ。森久より印紙3, 500請求あり。臨時に出して貰ふ。九時頃、余現金持参、為替の柵内に入る。主事さん国債寶?係に付いて色々説明あり。此の朝、靴屋の上本氏、立石竹屋、長谷川撞球（どうきゅう）の三名、別府方面行き。尚、本局行きの序でに司城氏に会見。井上氏の自決を要望。3500円、百円印紙を森久に届けたり。夜、椅子再び破損したるをミワさん持行き、余坊を連れ一緒に出掛く。京町にて4, 2文にて、坊の夏着を求め販る。井上氏一旦家に販り、夕方再び来たり一泊。森田さん、午後一時十五分発にて幸袋に販る。余、坊やの為に没頭し、仕事身に附かざりし。羊羹六本求めらる。

昭和16年8月10日（日）

晴れ、多少曇り。暑熱強し。昨六時、横田氏の講習所の生徒来たりたる由。政恵さん天麩羅、西瓜等食して腹痛を起こし、坊を置き薬を取りに戻らる。坊に牛乳与ふ。幾らか乳呑み来たりし上に、更に牛乳も一合飲み、少し過ぎたる嫌いあり。下痢数回、夜十時まで何も与ひず。

十時半重湯を与ふ。裸体とし、水にて汗を拭ふて遣る。
十一時頃、寝に就く。手紙道子宛てに出す。

昭和16年8月11日（月）

一昨井上さん泊まり、昨野口氏と活動に行きたるらし。井上氏、昨朝飯宅。此朝も来局。爰に於いて野口氏に窓口業務を、更に井上氏に辞表を忠告す。十時頃まで二階に居りて退去。森田さん昨日より汽車時刻改正の為、午後八時に到着予定を十一時に到着。野口さん八時に出迎えたるも、不飯。明日来る積もりならんと噂し合ふ。さて此日、大貞局長より電話あり。同局長が干渉がましき態度に出て、其の為に退職せしめたるやにて、父親と云ふ人、抗議を持ち出でたる由。余の意思は、大貞局長に承諾を得ずして採用せしことは大貞局長に対して申訳なしと云ふ立場より、罷めて貰ふたので抗議を余に受くべき理由なしと答弁したるが、四時五十分頃、今度は局長と井上父親とが余を訪ねて来たり。再び問題を繰り返す。爰に於いて余、問題の真相は本人に於いて承知し居る筈、余よりは何事も咄さぬ方がよいと思ふ。大貞局長云々は、大貞局長の承認を得ずして採用したる余の措置を申し訳なく思うまでなり云々と咄し、諒解して去る。局長丈け残し、公文の余の意見を逡信局長に具陳の点を示して、採用に難色あるを認識せしめたり。横田氏より朝、坊や連れに来る。重湯を与ひしばかりなればと、遣わざりし。後刻ミワさん立ち寄らる。猶、横臥して居りしも、乳は充分出るとのこと。六時に連れ来るべしと約して飯らる。六時三十分、坊を連れ沢山飲みて来る。今日牛乳配達なし。朝坊やを抱きて貰ふて、自分集金貯金なし居る際、すべりて転倒す。坊を連れず幸に怪我させずに済みしとて、林

檣を求め来らる。坊やに磨ってやることにせり。今朝より降雨。一時歇みたる時、切手受取に行き、販りに再び降り出したるも、余が家に入る頃より歇みたり。

昭和16年8月12日（火）

昨夜半おしめ換えたる際、坊やの身体悉く濡れ鼠の如く可なり冷えたるらし。後、凧（はなみず）出づ。熱発に対し毫も感知せざりし。然るに、四時頃湯に行きし際、平素毫も泣かぬのが裸体にされると同時に泣き出し、其の儘泣き寝入りに販りは睡り来れり。様子変に思ひしも、此の疑問に研討を加えざりし。此日の夜半も、稍風邪を誘発すべき寝冷えに対し、全く周到の注意を払はざりしは、後より見て遺憾至極。横田氏政恵さん下痢腹痛らし。朝、例に依り、五時乳を与ひ、九時頃重湯を造りしばかりの与ふ。午後二時と其の前十時半の二回、乳貰ひに行く。八幡の娘が折角、来て呉れと使ひに来たりし為なり。然るに病人の容態、猶快癒に不至。夜は行かぬこととして牛乳を与ふ。七時過ぎ坊を連れ、巖への盆提灯を買ひに出掛け、本局の隣より2, 70にて一對を求め、坊をミワさんに渡し、余は急ぎて巖の家に其の贈物を持参。勝手元に廻り、巖に渡して其の俣還れば、ミワさん常会7時30分開会に、迎えを受けて行かる。母堂守りし居らる。代わって余守る。司城氏五時頃来訪、玄関にて立ち咄にて販らる。

昭和16年8月13日（水）

昨の快晴に不似、朝来降雨。六時少し前、街路を掃除する頃は左程降らず。坊は神詣でより販りて体操を見て、朝飯後、乳貰ひに行きしに発熱38, 8と云ふ。爰に於い

て頭を冷やし、後氷嚢50を求めやる。相談所島原氏出張、九大より代務の医師あり。町医に診て貰えと云ふ。此の朝、鶴居局長より電話。補充員に付き打合せあり。明朝出局を依頼す。朝十一時、乳を（重湯にあらず）与ふべきを延ばし、午後一時近く与ふ。其の際、横田政恵さん来て下さる。午後五時半、再び来て下さる。牛乳、朝配達あり、是れは午後一時、半分飲みかけ小母さんの乳に移る。残りの半分は午後五時半、再び来られし際、小母さんの乳五六分間飲みし俣、泣きて吞まず。余、其の牛乳を与ひしに皆飲みたり。而も冷えたるを与ひしもの。林檎汁今日もやる。此日十一時、東吉富の人、富松幸（みゆき）42来局。余と相對して用件を聞く。大貞駅前に居り、田端氏の二度目の採用前、連袂（れんべい）退職の一味なり。色々咄して飯らす。森田氏より帰国土産に頂きし米粉の団子を作り、伊勢さんまで供養す。盆の初日なるを以てなり。おしめ火にて乾かし下さる。夕方より次第に霽れる。此の夜、おしめ不足を感じ、十一時より火にて乾燥す。一時、其の俣横になる。蚊取り香つけ放し。氷嚢を50にて求め吊り下げ、隣家より井水汲み来たり、専ら看護に力む。

昭和16年8月14日（木）

朝、松田まさ子局員志願。鶴長に咄し、此日連れ来る。坊や発熱37と平常視せられるに至る。伊勢さん明日、一緒に取り纏めることとせり。朝七時四十分、横田氏母堂来。乳呉れ行かる。乳はミワさん其の後、坊を連れ行かる。然るに此の夜、熱発38, 8。九時頃氷を求めに行く。雨脚漸く繁し。駅前警官詰め所裏にて、一貫匁12求め、氷嚢に入れて冷やす。胸は煮るように熱し。四十度を超

えつらんと覺し。恐ろしく計量する意気なし。此の夜も十一時頃まで重湯を造り、蒲団を敷かず看護に盡くす。

昭和16年8月15日（金）

朝に至るも熱下がらず。而して高熱に不拘、乳は不相変、量を減ぜず飲む。午前中、雨。遂に、裏の清松医院かかり兩人にて連れ行く。余は坊を渡して販り仕事す。臈（やが）て電話あり。急ぎて坊を連れに戻る。何ぞ凶らん、おしめ持参せよとのことなりしと。改めて坊を連れ再び行き、右股に注射して貰ふ。浣腸し、ひまし油を遣りたるとき、黒色の便を多く洩らす。腸が悪きことを知り、「わかもと」えびおす等混入の薬を与ひらる。横田氏小母さん、朝の十時、及び三時と来て下さる。熱次第に下降。此の間、数回便通あり。医師の勧告に従ひ、四時間を隔てて乳を遣ることとせり。余は風邪が原因とのみ想像して応急措置したるも、腸を聞き安神せり。肺炎になどならんには、深刻なる悩みの種子となる処なりし。台風室戸崎に上陸、中国近畿を荒らし日本海に入る。午後より一段、風雨繁し。

昭和16年8月16日（土）

此朝重湯やらず。六時半より出発。乳吞みす。十分間程飲み、後は疲れて吞まずと云ふ。顔色、猶青し。甚だ枯れたり。余り泣きたる関係にもやと案じらる。熱は殆ど平常に復せり。一二回づつ林檎の汁を与ふ。元気なし、顔青し。此の夜は十一時より寢床。夜半三度起きる。天候漸く恢復し来る。おしめ乾く。

昭和16年8月17日（日）

快晴、午後三時頃より曇り。十時半坊を連れ乳を頂きたる後、清松医院を訪ね再び診察を請ふ。発熱なし36, 5。急に恢復するものに非ずと懇（ねんごろ）されたる由。午前八時過ぎ、横田氏息子熊本に皈る。坊や午後五時半5, 35。オキシフル求め20消毒して、腹のへそ下の腫れ物に附けて貰ふ。不用書類の整理を遣り出す。。時々坊を守りす。六時、坊を戸外に連れ行く。向かいの靴屋の弟さんの子は、九ヶ月になると云ふ。幾らかませては居るが、均衡は坊の方がとれて居るやなり。夜、素麺頂く。道子より色々書いて、速達にて寄こす。澄子の問題が主となり、坊やが後たり。坊や病氣と相前後し、余の腹部蚊に刺されたるが、遂に腫れ物となり、一面腫脹（しゅちょう）を呈し激痛あり。昨日より膏藥を貼付、此の日オキシフルを以て消毒す。

昭和16年8月18日（月）

切手請求あり。晴天。昨夜、坊乳貰ひに行き碌に飲まず泣く。皈宅後も泣き歇まず。余抱き、戸外に連れ出して睡る。十時に乳呑みに行き、皈りての報告に、一時呑むも其の後は首を反対側に曲げ決して不呑と。六時の際は特に少なし。横田氏大いに心配され、態々（わざわざ）乳呉れに小母さん来て下さるやの挨拶ありしとて、多忙の際、来て頂くに不及と断りに行って貰ふ。間もなく睡る。十時まで前後不覚の様子。乳を与ふる前、身体を拭く。

昭和16年8月19日（火）

午前中晴れ。午後多少曇り、驟雨。三時仕事着の儘、横田氏方に至る。猶乳を飲み居る。傘をさしかけて貰ふ

て販る。五時の分は途中にて会す。雨も途中より降らると。此の日牛乳不配。重湯を造り十時に与ふ。よく寝る。林檎汁を与ふ。毎日一箇づつ与ふ。今日の七時半、湯を遣はす。井上さんへ給料9,40送付。但し書留料、為替料金引き、9円16銭送る。

昭和16年8月20日（水）

坊や神詣で、例の如し。ラジオ体操、今日で国民的には閉会。常会にて小供に菓子を与ひらる。坊は其の資格なし。午後五時、坊泣くこと甚だし。乳不足と見えて乳首を吹きては泣く。横田氏より大きなボラー尾、婆ちゃん持来らる。恰度五時半、乳貰いに行き、表と裏と行き違へになりしなり。刺身にし残りは味噌煮とす。坊には夜販りて来、林檎汁を与ふ。足らん位に飲み了せり。

昭和16年8月21日（木）

晴れ、後曇り。台風九州を襲ふ形勢を示し、夕方頃より漸次、険悪の様相を呈し来たれり。体操は以前継続の姿。坊やも混じりて、ミワさんの体操振りを注視す。坊や乳飲むだけ飲めば、如何にしても反対側に首を曲げ、無理に与へる時は泣くと。八時前、湯を浴びせたり。此日中津局に切手類受取に行く。牛乳来たり、温めて遣る。十一時寢床。日中容易に寝ず、夜は克く睡る。

昭和16年8月22日（金）

九時頃より降雨。乳の小母さん、十一時来て下さる。午後三時、再び来て下さる。饅頭及び林檎を土産に遣る。台風九州に侵入の恐れあり。其の影響を受け、朝の内は晴れ曇り半ばし、十時頃より雨風を伴へ暴風の兆しあ

り。六時半、坊を負うて行かる。雨風猛し。傘さす能はず。濡れ鼠で行かれ、飯りは霽れたり。道子より葉書、澄子手伝いに来てもよしとあり。「おたんちゃん」皮膚病の悪質とあり。遂に人に伝染の恐れありとて、注射にて往生せしむと云ふ。

昭和16年8月23日（土）

朝四時を峠として、台風は進路を変更したる為、次第に風雨収まり、予報は今日雨とありしも、十時頃より碧空を現はし、後再び密雲漲りしも、間もなく霽れ快晴となる。おむつ克く乾く。十一時、横田の小母さん来て下さる。午後二時よりは、先方より来るやの意嚮らしかりしも、午後より暇だからとて、こちらより出掛けたり。午後七時の乳貰ひは、思ふように出ぬのか、泣くこと甚だしと。無理に出ぬ乳首を吸はせらるる為、憤（いきどお）るものと思料さる。坊は朝必ず便通あるに反し、今日は終日なし。いちじく浣腸10求めさせしも、成るべく自然に任せんと、葉は求めた俤与へざりし。四時半、野口氏身体の関係より風呂に行かぬので、ミワさんに入れて貰ふ。半時間後、余迎ひに行く約。此の間「にんにく」味噌を造る。局報を処理し、豆債券を五枚売る。四十分以上費やせし如し。急ぎ風呂屋に至る。坊やは着物を脱ぐや、上がるまで泣き通しと云ふ。夜、飯って来て目覚め睡らず。ミワさん守りし呉る。此の朝、街路の掃除をなさず。降雨の為なり。坊も残して、ミワさん独り神様に詣でらる。

昭和16年8月24日（日）

晴れ。神様へ、及び朝の七時とミワさん行かる。十時半横田政恵さん来らる。勝恵ちゃん計量の為なり。一貫八

百七十匁、坊は一貫二百匁。夕方一時驟雨あり。倏（たちま）ち歇む。七時、例に依り碌々飲まずして泣く。政恵さん当惑さる。飯宅後、林檎汁を遣る。湯浴びせしむるに割合泣かず。道子へ返事として達彦の外、通称として博道とすべしと提議し来る。之に対し達を名乗りしに、ミチ、ノブ、サトル等の内、最初の「みち」がよからん、「みちひこ」と称すべしと申遣る。尚そちらは一人一人、各自自分を愛し悩みを蔵して居る。斯かる雰囲気内では朗らかに育たぬ。俺の家は、悩みは坊の完全な発育に寄与する為のもの。坊の犠牲の内に何等打算的なものがない。斯かる雰囲気に於いてこそ充分に延び得る。十日間そちらに居て、其の坊に対する態度を注視し不利益と認める場合、再び坊を連れ戻るから左様承知し呉れ云々。羊羹五本づつ（坊やの着物と涎かけ一枚、佐世保中尾氏方より到着の礼状）佐世保と道子とに発送。明朝、取扱いを俟って委託すべし。ああ睡い。

昭和16年8月25日（月）

昨日より急テンポに秋らしくなり、朝夕の風涼しく、虫の声唧々（しょくしょく）たり。日短く、朝五時、猶暗し。坊や便通なき為、昨朝浣腸せしも、本朝は夫れを遣らざりし。習慣性を惧れてなり。清松医師に連れ行く手筈なり。朝九時より診察とあり。第一回の乳貰いを済まして行く積もりの処、一回目に飯宅して便所したるに多量垂れたり。医者行き解消せり。夕方より独りにて睡らず。暫く抱き居りしも、腕重圧を感じずるに至る。仍って之を負ふ。初めて余に負はれて見る。窮屈らしく、初めの間ぶつぶつ小言を謂ふ様子なりしが、遂に眠る。六時半連れ行かる。不思議に先方でも泣かず。七時過ぎ飯来。湯を遣つ

てやる。其の儘眠る。此日穴瀬切手請求に、50銭紙幣一枚、過剰返戻せり。快晴。

昭和16年8月26日（火）

朝の間晴れ、次第に曇り。五時前後より降雨。坊や湯に五時近く連れ行かる。森田さん、お父さんより「生活の反省」「浦安の舞」「時局下に於ける敬神奉公の実践」と称する三種の小本贈呈あり。之に読耽り、三十分後迎えに行くことを遷延二十分。大いに呵（しか）らる。降雨。坊を濡らすまいと韋駄天走りに販り、和傘を携え再び湯屋に行き、番台主に預け急ぎ販る。坊泣き声す。而して余の顔を見て喜ぶ。少時抱き、後寝かす。冷氣初秋らし。六時半、乳貰いに行かる。之を負ふ。毛糸セーターにくるみ、負ふて行かる。給料四時過ぎて到着。各分配し、家賃も序でに遣る。

昭和16年8月27日（水）

朝より雨歇む。冷氣可なり。夜を通して綿入れ一枚にては、凌ぎ兼ねたり。坊も此の夜は、蒲団掛けし儘、睡り居たり。終日曇り、夕方幾分陽射しあり。それでも降雨を見ざりし為、おしめ乾く。朝、横田氏へ謝礼十五円持行かる。十時四十分頃、政恵氏来。此の朝ミワさん、昨木下主事より事務員志願者数名に対し、戸外訪問に出でらる。十一時販らる。恰度、横田の小母さんと祖母さんと来て居らる。謝礼金を返房越さる。従って、午後二時半に行きたる際、再び其の御金を贈呈、受理せしめたり。葡萄25を潰し、汁のみ坊に遣る。結果は芳しからず。

昭和16年8月28日（木）

朝霧深く次第に霽れ、快晴となる。坊のおむつ一向乾かず。代わりがなくなり、未だ幾分湿めし居る分を、充当するの不得止。朝飯後、大急ぎに抱きて陽の照る所に持出し、手足の冷えを治したり。熱発の疑いあり。数回体温計を取出し、計量するも36度に上がらず。下痢数回、便色悪し。葡萄汁をやらず、模様を見る。赤坊脊負い帶280、上等のを求め来られ、早く利用。坊や克く寝入る。之を下に置き安眠せしむ。馬鈴薯、市内に払い底。漸く売りに来たりしを求めたりと、ミワさん持参さる。森田さん昨、狗一匹求め、牛乳二本を駅より購え賄はる。ミワさん大いに不潔がり、処分方を余に慫慂す。余、餘り頓着せず。ミワさん等入浴。二十分後、坊を連れて湯座に行き母堂に渡す。坊、頗る大人しく入浴せりと。鶴居局長、杜永氏臨局。豊後町、局長問題話さる。平原氏後任となる由。前田氏、下宮永の人、此日四時履歴書持参臨局。面接の上、一旦帰宅せしむ。夜に入り扇城高女校に照会書作成。

昭和16年8月29日（金）

朝の内曇り、午後より次第に霽れ。夕方より快晴。澄子、午後零時半の汽車にて突然来る。白餡持参、玄米五升巖方に持行かんとす。余の方に留め置く。其の代わり食事を摂らす。蚊帳、市内を漁るも売り物皆無。独り寝、大人用650求め来らる。ミワさん澄子の為に三畳を掃除す。桶を転がし大きな音を立つ。ミワさんの背中に居りし坊や驚いて泣く。ミワさん坊やに衝害を及ぼしたるものと推し憔悴、泪を浮かべて狼狽す。母堂水にて冷やす。余、其の必要なしと遮る。長谷川氏、何事ぞと裏の小道を辿りつつ立ちよって居らる。金光様の御札を頂かせ、

狂人らしき態度に、余大いに閉口す。坊や呆然泣きもせず。澄子恰度、巖方に行き不在にて醜態を見せずに済む。午後七時、坊や乳呑みに行きし留守、理髪に行く。裏の角、一人つみ居る。停車場前に至る30。帰れば坊や既に帰り、澄子も販り居る。ミワさん湯に案内す。九時販宅。茶を頂く。土産の飴、甘味薄し。一ヶ頂く。十時になる。切手請求調書これより作成さる。森久五百円印紙、朝、現金納付。ミワさん午後印紙受取に行かる。坊や「くさみ」ばかりす。風邪の気味ありと覚えし。熱発なし。夕素麺独占、大食いす。澄子、巖方に至り夕食を済まして販る。母堂幌蚊帳に休まれ、澄子母堂の分を吊る。然るに、三疊は蚤の巣窟。殆ど安眠するを得ざりしと。

昭和16年8月30日（土）

午前九時より、特に部会長さんより中津局に集合方の命令あり。共済組合講習会は十時よりとなり、一時間早目に登局せしもの。十時まで部会開催。次いで十時より、厚生課出張員共済組合規則、及び規程の講義あり。昼飯、駅弁配布、余持ち販る。切手類と共に、時に降りそうな模様なりしも、遂に降り出す。弁当と切手とを裏口にて、ミワさんに渡して引き返す。四時迄かかる。爰に木下主事に頼み置きし、小学校卒業にても成績優秀のものを推薦ありたき旨を告げたるに、東吉富出身のものを、年十九、成績極めて良好とあり、氏名を記載して葉書二千枚を持ち販る。夜に入り雨歇まず。七時、余坊を負ふて乳呑みに行く。発熱幾分あり。36，3を示す。朝も夕も変化なし。湯にて身体を拭い去る。

昭和16年8月31日（日）

雨歇みたり、降ったりの天候。予報と相違し、曇り晴れ模様とあり。晴るる処か、夕方まで降り止まず。各種報告物、大概発信手配済み。坊は朝も夕も36，3分、幾分熱あり。それも平気で身体を摩擦しやる。七時過ぎは湯を遣ふ。前田澄子、明日出頭方葉書通告す。